龍王太郎第五編

上

弘化戊申春
江戸通油街
松林堂上梓

へ13
3699
5

門 へ13
號 3699
卷 5

龍王太郎
筆五編

小三馬作
豊國画

弘化五年
戊申孟陽
蓬莱

龍を鱗虫の長なりとは説文に見えたり。埤雅廣要に白龍を八十一鱗。九九の数と見たり。九は陽なりされば鱗虫の長なる。龍王の名を負せる龍九い則英雄の長ゆゑ。豊國ぬしの浮世絵の長作者の書舗の帳を張らんと。龍の鱗の九九八十一筭盤はくも鑑てよと冊子に長編とるらんとは。汝ぶ拙文にて鉄面皮体と賢察も宜さるべど皐月雨と跡ら酒飯撰をひくのぶ近曽の流行なり。その流行は龍行也。龍王の世に行はる。祥徴なりんと。書賈に擅掇て俗傷唬の龍の来歴をぐ戊申智慧の三本たる戯作者ゆゑ。趣向も例の取次彼唾壺なる龍王太郎陰溝なる蛇足の誤あるべし。そこらは諸君後龍見ぬき。

弘化四年丁未中秋稿成
仝 五年戊申孟陽發市

式亭小三馬戯題

瑚珠珊太夫男
光吉

薄命の
夫婦
雄渾
恨を演る
奸臣
牛窪郡領
宗武

☒岩見ものもめのうくるりとふそれぞれ一城主くるりとこのまぞのとうりアそうなのたれかしてかんそぞくるぬ
これかれるぐくぐんかの人とまんらんかるまりうちかしいちのあざ
ひとかぞ一家をかろ屋しふうりぐるうふ一子もあうかそれふうざ
つの姓とるのらせかとあうちくうが
家ちくうが祖父とち
君へのうくうくうかしたぐうすわ
のかこうるのくあうの使宮のさまをるすて
世のうこの
ちうぐうけうを
かうこひ
らんぞく
とうこうぞ
けんあるを

きうこえ中ぐんぞはとうれゆておとのちせんをさうでその地
るれがだ志ととけんとたぐん用金ゆうてこれかまきされど
まるぐがへいまくるけれいらぞ大身ぞの人のみりまり
きをうるれぐひめ君かてあいさるまるあるのとち
ろいつぐんとるへどうれるまの附ふのるも
あるんりとあとのるもきごうろくろ
まるまる上の市郎のうこけもあれが
おせうとまうねあるみるのあ
も兄ふのむさんのめうぐう
ふうてめうれいこんはあり
めをうれどことををうてかうて
又ひとぶらうかんけのふあちうめう
ぶううとうれうまりくとらとあうそ
こなをまうるうまうとまるうろう
あるまうりのちうあるのこのふたい
めんありのちうぶあううるかうのう
とまう系ちうまをるくんとうとうこあ
るうるたるすけとるうんとうこあ
せいぬるうるぐせいたうるれ
いうぐうきあうひうのてうまうり
ひとうかくこそあうくうれうれ
ふまうぐ東奥ぞうをけの上ぞ
せまぞかう音川とのもひうど
い山名とふ和ふるうれうまや
こもあうぐあうるうれういあんめ
とあうりもとのびるんたのうく

☒いとまるうあくいるしーたうこ
四年まるこちいこのせうきくく
れぐじむしーや毒ぎうるうふのぞうる
よりとれれのうふうくまぬされば
まをふうるくと日とあうくんいえう
るるをとるうるぐうけれちうひぎを
ものてくちのくくぐうんるりうぐうと
くのうるるあるれうちるもひぐうるうさ
のをそそ父のあさうとうるめ

さうふ母うく人神女のううけふのちみうのくへううちにうの人のるんをまうこひまるうせのよまがとうるくんとのうまるーと今ちんくのやくうるーあるぞくとうるんうされるくうくのくへくうるそかのくふやくうるんあうくぐうくうないぐーうぞちあるのぎくかんをううけてのちふまうとの名をあうてあぐけのをんてたうぐまうてたいとんうるるうくんいうるうるうぐうるうるうぐ世をけいさくうちあるうるうとうちをうとけうるたうたがまぐうるぐるぐのうるりまもうぞぎーうるそもうるうるうる

龍
貞
芳
北
深

○式亭正舗吉例れいろう
金勢力丸代百文 五十文
酒の名
をさまり酒とよく
のまれむ
かろくの
ぐけ
一つのめ
法薬小郡功
あり
名方
今はこれど
天女丸代百四文
月くのけいけあるこれ
月れ
名方
のべ
子
南
空

○神女の神通
貢
南
北
東
空
神方 聖利丸 一包代 五十文
世ふ通ド某あまくあつと
他家
千挺入二十文 五百挺入二千文
伊吹山 御薬のぐさ
九年晒
三馬

○三馬こと世話狂言作者
○江戸のわ
大和代百五文
つめく百文
中和代百文つめく五十四文
小和代五十文つめく三十二文
五吾妻香
相模ごま
代一五十文
百五十文
百文
五十文
三十二文

つゞき
魔
児玉
杖

人参即効油

一貫 五十文
貴 廿四文

夜切香

風邪 一名 調氣湯

四帖 代廿八文

あき袋入

本家 江戸本町二丁目北側中程 式亭三馬製

豐國画

小三馬作

下

弘化五戊申
松林堂
梅
小三馬化
豊國画

つぎへよろしきとりて其心をとりけれバ山名も立日川がめせんとそれをむねとはとうぞくきもそうとめろうちく心をつきずもてよく文子赤松がふしそうひらくりかとまうとちやうふとさえあげれバ一政公に人かりてれべくもときうれれとがうせんたうき心とひやうくじをせいつ日らまとれどうくそうけみつきかうせ一がれぐん功のきようてにてぎつのアさうちのとてらぎをとぞぞぶのまでりけれバエとてへやよりとうらえ山名へへさ一ビこそうふとかもうかくもうけれバよめくの山名らしろ系にふかきもうかとれもうぎよきつこうどこもに人心とあかせきまくのさうらを

かまへけれどもよし政公山名ふまどのすまひねどもとしもバ山名さるかとさくのめとえ又かかりぬわれが山名のさうらくにとてくらしも今にゆあわせ二一にちくてまわりわせしとも系そのこともみせけれバおさむをむねんとそうにそれもらしもそうとてとそいりせらをかれ花みの人いのとをさうつけ又ろうはよしの助ざい京のろきにて義岡すん今をとひそうちくきろーあんいゆとてもぬのくこともえうあく五らふまくめやわれの人をあうやそうせぎ宿ろんきう三ケ国とあ守やとうし山名けるうしつあつくのかぞそうゆそ近江その立日川とかさもるぶるかどのたのきえんところ見てて山名入たもらしかのけんわれおもるそれどのけんきえんまりけるかくもらぐんりうちょくくれそ臣このききよしもむぎむきらそれきよし山名とも今ん主にれかと川をそろしのもうけれのうよせんとそのきもうそぞうひける山名をうつて一ゆ天下をたきぞろかくるかんちのみせのうれ在京のぞうれひくさましまへりつぞりてぞうーらど在国のと系れそれたろうめも為けれバそのうどれおもくうぐちやうしけらい二べつかうらそうまぎむそうやうに内宮をわざるわれゆくのめのをとうつけゆまうねく

○武亭正制茶菓品揃

天人香　一包代　二分
　　百五十文

中包五十文　小包三十二文

御えりあしろい　大包代百文
　　中包五十文　小包三十二文

紅毛奇方　ゆあらい粉

牛

代五十文　北四文

相撲より出つ入代百北四文

すべて男女ふ

代五十文

序幕中早化粧　あげまきの

代五十文

つゞき
ようこそ
ようこそ
ようこそ

光吉
さんた
てる作
さん

牛
寅

玉
兎

○武亭店粧家
婦人三養湯
大包百文 小包五十文

つゞき せめてあつれるりかくるるけだものやうぬぐえりゆうのようよいこころとひえぬくやらぐてる化ぐむるひとゆくつるぬさ女生かさるふ
せぬさをひとうえあつとだろりふあつてるだろくふろくるこるるぐふくれ
そまる秋のまぐれのむりるぐでるくれもりそろうめくのこるるこをひ
さろぐてぐんりゆうをえてこゆるむりるちぐゆそろるひあるぐるぐて
げりあまりるうるえぐぐれあやもるこるるるくれしーげんりゆちが
まえをえんあもせりしてようのくるいけんぬきかつてとるとこるふ
つるぐんりゆうまろさまこをひらきのとりうるぐたこるこるるるぐ
ふそろひーどうつぐりてもらけてるうぬゆるるれぐめいごのみや
けふいらてきるゆるかのれぐるもやのさんたまつれをさこるする
ゆとぐこさゆろをびさろぐゆそちぐつのつぐ
てのうちゆそてろ已こりそれとるふも
おのれもるをさりどあるさひーけこひの
かるるぬゆるろいるぬらもるうもりけ
ていあろるぬとんでめてあつを
ぐんりゆうぐとをれちまるへ
むりくくとあるさそいさゆて
ありよのひきひどうのぐ
あくゆんあをるとこるもるひぐ
どくるをかるとりるるぜんせのりんぐて
ぞゆるをゆくけゆあてゆあるゆるせてさると
るるとのるくんぐるつてのるくひるるせさや
つぐくるをこりぐるまるるるるるひきをるるるるるせ
さてつぐくいるてもるるるるる

豊國画 小三馬作

龍王太郎英雄譚 四編 五編 六編 一陽齋豐國画 式亭小三馬作

五色染芋環毋子 二編 三編 歌川豐國画 式亭小三馬作

花白梅春風 初編 三冊 式亭小三馬作 一雄齋國輝画

昔新當世推故傳 初編 二編 立川焉馬作 歌川豐國画

東錦繪地本屋 江戸通油町南側 藤岡屋慶次郎